

大学名： 岡山大学大学院教育学研究科

ASPUnivNet の 4つの機能	評価項目	事例記述
学校のユネスコスクール加盟を支援します。	1. ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	加盟を希望する地域の学校からの具体的な相談は特になかった。
	2. ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。	できている。
	3. 地域の加盟済のユネスコスクールに向けて ESD/SDGs をリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	できている。具体的には、岡山県ユネスコスクール高校ネットワークの活動としての各学校の実践発表および、ブルガリアのユネスコスクール加盟校との交流会・コラボレーションの企画・実施を通じてそれぞれの「質の向上」にかかわる支援を行うことができている。
大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します。	1. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援(資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど)を行うことができた。	ユネスコスクールからの要望に応じて、加盟校の生徒対象のSDGsの講演会&ワークショップへの講師派遣を行った。
	2. 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。	できている。2021年8月に岡山県ユネスコスクール高校ネットワークの教員を対象とした研修会を開催した。
	3. 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。	岡山県ユネスコスクール高校ネットワークと協働で、ブルガリアのユネスコスクール加盟校とSDGsカレンダーを共同制作している。カレンダーは世界に向けて発信予定であり、その制作段階において、様々なSDGsの学習とそれにまつわる実践の整理と共有、また双方の文化について学ぶというプログラムを開発することができた。
地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します。	1. 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	RCE 岡山の主催するユースを対象としたESDおよびSDGs推進の企画に、岡山県ユネスコスクール高校ネットワークを支援するOBOG学生スタッフを参画させるようにし、その際に県内外の様々なステークホルダーに向けて、ユネスコスクールの活動とその意義について、自らの経験を絡めながら発表することができている。
	2. ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることができた。	十分にはできていないが、学生スタッフの活躍により、ユース団体どうしのつながりが生まれている。

	3. ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。	岡山市教育委員会と連携して、ユネスコスクールの教員を対象とする研究グループの発足を目標として協議を進めており、コアメンバーの確定まで至っているが、コロナの影響により実際に研究会を開催することはできなかった。
国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します。	1. 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた	上述したように、RCE のユースに関わる企画にユネスコスクールOBOG学生スタッフが参画することにより、その存在と意義について知らせることができている。
	2. 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。	上述したように、岡山市SDGs・ESD 推進課のサポートにより、ユネスコスクールであるブルガリア国立造形デザイン高校との交流を続けており、今年度は協働でSDGs カレンダーを制作することができている。
	3. ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。(例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など)	1. 上述のSDGs カレンダーの共同制作に向け、岡山県ユネスコスクール高校ネットワークの加盟校での事前学習会をオンラインで開催し、双方の国のSDGs の状況について学び合い、その上で、SDGs カレンダーに込めるべきスローガンやメッセージを決めたり、デザインを考えたりすることをユネスコスクール OBOG 学生スタッフと共に支援してきている。 2. ユネスコバンコクおよび ACCU による「ユネスコスクールネットワーク (ASPnet) : アジア太平洋におけるSDGs 達成のための学校の役割に関する協働型アクションリサーチ」(日本、ベトナム、タイの中学校が) について、岡山大学教育学部附属中学校 (ユネスコスクール・キャンディデート校) の活動を支援できた。
その他の活動	1. 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	十分ではない。
	2. 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。	担当する学部生向けの授業において、ユネスコスクール加盟校 (学区) の取り組みについてその成果と課題について学び、実際に学生を現地での活動に参画させている。
	3. 調査研究活動でユネスコスクールに関連した調査研究を行うことができた。	できている。
	4. 自由記述	